

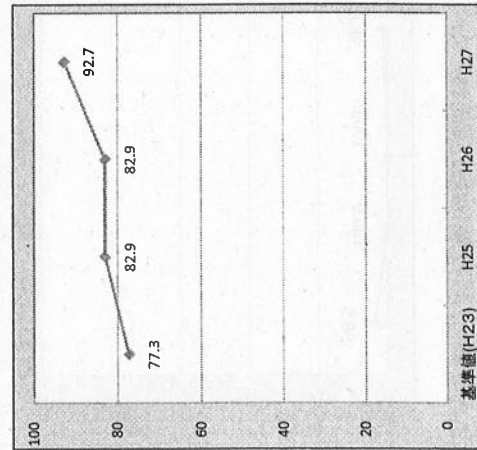
第5章 平成28年度（平成27年度対象） 点検・評価結果

第2章 平仄 8 平 7 仄 (平仄 8 平 7 仄)
果 辭 配 籍 · 斜 点

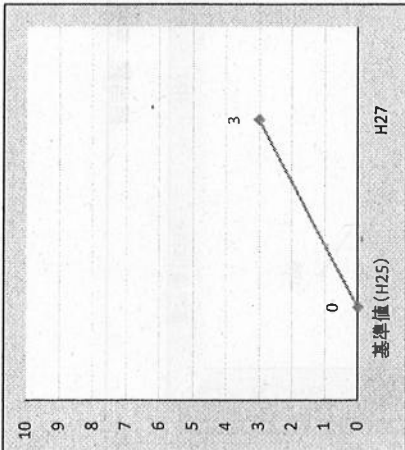
徳島県教育振興計画(第2期) 平成27年度 成果指標進捗状況等

基本方針1 新たな価値を創り出し、未来へ飛躍する人を育てる教育の実現

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																				
1	キャリア教育の推進	キャリア教育の推進体制の確立及び充実 キャリア教育推進指針の策定・推進	平成25年度に策定した「徳島県キャリア教育推進指針」を学校・家庭・地域に周知し、学校が組織的にキャリア教育に取り組むための指導体制を確立する上で必要となる全体計画の作成を推進するとともに、「講演・出前授業」の実施など、学校におけるキャリア教育を推進するための支援を図る。 学校関係者・経済団体・有識者等から組織する「徳島県キャリア教育推進協議会」を開催し、「徳島県キャリア教育推進指針」の周知・推進を図るための方策について協議・検討を行うとともに、「経済団体・企業等と連携した「講演・出前授業」や教職員の企業理解に向けた教員対象企業見学バスツアーの実施」、「キャリア教育推進フォーラム」の開催など、学校におけるキャリア教育推進に向けての支援に取り組んだ。また「職業体験・インターンシップ」を円滑に実施するための手引を学校編・企業編に分けて作成した。 <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>-</td><td></td><td>策定</td><td>推進</td><td></td><td></td><td></td><td>推進</td><td>推進</td></tr></table> (単位：－) (成果) キャリア教育を推進する上で必要となる全体計画が県内公立すべての学校において作成された。学校におけるキャリア教育推進への支援として経済団体・企業等と連携した「講演・出前授業」や教員対象企業見学バスツアーの実施。さらに「キャリア教育推進フォーラム」の開催により、系統的・体系的なキャリア教育の推進につながった。 (課題) 家庭・企業への「徳島県キャリア教育推進指針」の周知が不十分であるとともに、各学校において全体計画に基づく実効性のある実践が必要である。職業体験及びインターンシップの参加者数を増やすことも課題である。 「徳島県キャリア教育推進協議会」を継続して開催し、学校・家庭・経済団体・企業が連携・協働したキャリア教育を推進する。 各学校における全体計画に基づく実効性のあるキャリア教育の推進に向けて、点検・評価等についての支援を図る。 事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針 児童生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、県下全域における職場体験やインターンシップの取組を推進する。 インターンシップを促進するため、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」「専門高校コンソーシアム事業」を、さらには産業人材育成センターと連携して「高校生キャリアアップ推進事業」を実施し、「インターンシップ」に取り組んだ。また、インターンシップ推進に向けた学校用リーフレット及び企業用リーフレットを作成し配布を行った。さらに、インターンシップについて新規の受入先企業を開拓するなどして、インターンシップ受入先企業のデータベースである「あわ教育サポーター企業データベース」について充実を図った。 <table><tr><th>基準値(H23)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>77.3</td><td>82.9</td><td>82.9</td><td>92.7</td><td></td><td></td><td>100.0%</td><td>92</td><td>97</td></tr></table> (単位：％) (成果) 「県立施設におけるインターンシップ促進事業」，「専門高校コンソーシアム事業」，さらには産業人材育成センターと連携して実施している「高校生キャリアアップ推進事業」の取組により、昨年度より約10ポイント近く参加率が上昇した。 (課題) 全日制のすべての高校においてインターンシップを実施している。インターンシップ体験者人数を増やしていく必要がある。また、今後、目標値を達成するためには、定時制のインターンシップの実施率を向上させる必要がある。生徒の多様な希望に対応するため「あわ教育サポーター企業データベースシステム」のさらなる充実も必要であり、また、「教職員の負担」「日数の確保」等の課題に対応していく必要がある。 目標値を達成するためには、定時制のインターンシップの実施率を向上させる必要がある。「あわ教育サポーター企業データベースシステム」の内容の充実や利用促進を図るとともに、定時制の生徒がインターンシップに参加できる新規の受入先の情報提供を充実させる。また、平成28年3月に作成した「職場体験・インターンシップ」実施の手引の普及及び活用促進を図る。	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	-		策定	推進				推進	推進	基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	77.3	82.9	82.9	92.7			100.0%	92	97
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																															
-		策定	推進				推進	推進																															
基準値(H23)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																															
77.3	82.9	82.9	92.7			100.0%	92	97																															
2	キャリア教育の推進	担当課 学校教育課 施策・成果指標 キャリア発達を促すための体験的な活動の推進 公立高校におけるインターンシップの実施率	<table><tr><th>基準値(H23)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th></tr><tr><td>77.3</td><td>82.9</td><td>82.9</td><td>92.7</td></tr></table> 担当課 学校教育課	基準値(H23)	H25	H26	H27	77.3	82.9	82.9	92.7																												
基準値(H23)	H25	H26	H27																																				
77.3	82.9	82.9	92.7																																				

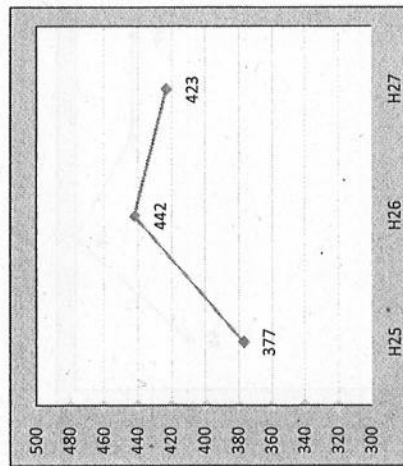


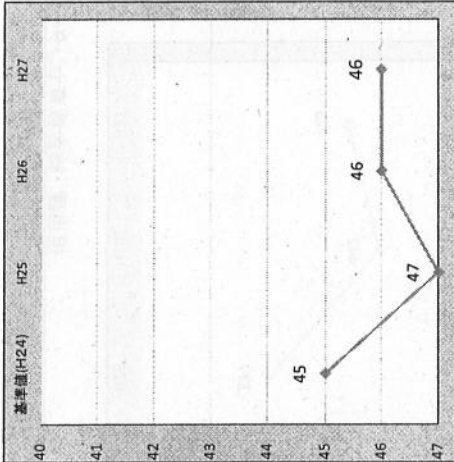
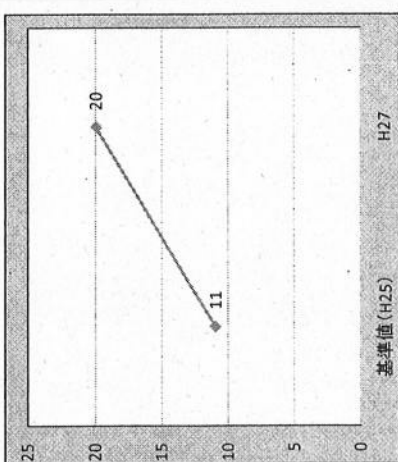
番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																						
3	キャリア教育の推進	キャリア発達を促すための体験的な活動の推進 公立中学校における職場体験の実施率 <table><caption>職場体験実施率 (単位：%)</caption><thead><tr><th>基準値(H23)</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr></thead><tbody><tr><td>96.5</td><td></td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>98.8</td><td></td><td>98.8%</td><td>100</td><td>100</td></tr></tbody></table>	基準値(H23)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	96.5		100.0	100.0	100.0	98.8		98.8%	100	100	事業目的 児童生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、県下全域における職場体験やインターンシップの取組を推進する。	取組状況 (H27年度分)	評価 (単位：%)	今後の取組方針
基準値(H23)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																	
96.5		100.0	100.0	100.0	98.8		98.8%	100	100																	
4	キャリア教育の推進	産学官連携・高大連携の推進 産学連携事業実施校数(累計) <table><caption>産学連携事業実施校数 (単位：校)</caption><thead><tr><th>基準値(H24)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th></tr></thead><tbody><tr><td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td></tr></tbody></table>	基準値(H24)	H25	H26	H27	3	6	9	12	事業目的 専門教育の一層の高度化を図るため、企業や大学、県の試験研究機関等と協働した施策や事業を積極的に行う。	取組状況 (H27年度分)	評価	今後の取組方針												
基準値(H24)	H25	H26	H27																							
3	6	9	12																							

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
5	キャリア教育の推進	産学官連携・高大連携の推進 6次産業化商品のプロデュース数(累計) 	「6次産業化をプロデュースする人材」を育成するため、農業科、工業科、商業科設置高校が連携し、それぞれの専門性を活かすことにより、6次産業化に対応した実践的な取組を行う。こうした取組の実証成果をもとに、全県下に普及を図ることで、専門高校の充実や6次産業化に対応した新たな教育を推進する。 徳島ならではの生産物でもあり、城西高校の生産物である「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校の生徒が集まり、生産・加工・商品開発について協働・情報交換を行い、各自の専門性を学んだ立場から、6次産業化商品のプロデュースに取り組んだ。 <table><tr><th>基準値(H25)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>0</td><td>-</td><td>-</td><td>3</td><td></td><td></td><td>300.0%</td><td>1</td><td>7</td></tr></table> (単位:件) (成果) 農業・工業・商業科設置校の連携による、「阿波藍」をテーマに藍を食とした6次産業化商品(和菓子・ぎょうざ等)をプロデュースできた。また生産における改善として、県農林水産総合技術支援センターとの連携による「藍の刈り取り機」、オリジナルの「藍すくも温度管理システム」を製作できた。 (課題) 商品開発後の販売を展開する上で、原材料となる藍の生産量の確保が課題である。 県央での実証成果を踏まえ、県南・県西へ拡充することで、さらなる農業・工業・商業科設置校等の連携による6次産業化に対応した教育を発展させる。 今後の取組方針	基準値(H25)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	0	-	-	3			300.0%	1	7
基準値(H25)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)													
0	-	-	3			300.0%	1	7													
6	キャリア教育の推進	産学官連携・高大連携の推進 大学から高校へ出向き行う出張講義や大学において行う高校生対象の講義・実験・実習等の実施	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針 徳島県内の大学と徳島県教育委員会の連携に関する連絡協議会における高大連携部会の事業として、県内5大学の「県内5大学出張講義一覧」を総合教育センターホームページに掲載し、大学と高等学校の連携を強化することで、キャリア教育の推進を図る。 県内5大学の「県内5大学出張講義一覧」を総合教育センターホームページに掲載し、各高等学校に積極的な利用を推奨した。 <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>-</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td></td><td></td><td></td><td>推進</td><td>推進</td></tr></table> (単位:一) (成果) 各高等学校で、出張講義の積極的な活用がなされた。 (課題) 高等学校のニーズと大学が提供する講座のマッチングをさらに図っていく必要がある。 毎年度「県内5大学出張講義一覧」を更新して、各高等学校に広報していきたい。 今後の取組方針	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	-	推進	推進	推進				推進	推進
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)													
-	推進	推進	推進				推進	推進													

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
7	グローバル化に対応した教育の推進	外国語(英語)教育・国際理解教育・国際交流の推進 海外からの教育旅行受入推進、短期語学研修や長期留学の推進、学校内における国際理解教育の推進	事業目的 取組状況 (H27年度分) 評価 今後の取組方針	外国語(英語)教育の充実や国際交流の推進により、児童生徒のグローバルマインドを育成する。 「Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業」「留学促進事業」「徳島グローバルスタンダード人材育成事業」等により、日本人としてのアイデンティティや「生きた英語」を身に付けるため、児童生徒が外国人と交流する機会を提供したり、留学や海外短期研修の経費支援等を行った。 <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>—</td><td></td><td>推進</td><td>推進</td><td></td><td></td><td></td><td>推進</td><td>推進</td></tr></table> (単位：人) (成果) 実践的に英語を使用したり「世界」を体感する機会の提供により、学校単位での国際交流推進や小中高を通じてグローバルマインドの育成を図ることができた。また、学校計画訪問等により英語の指導改善を図ることができた。 (課題) 意欲ある生徒が、学校での授業や外国人との交流で身に付けた英語力やコミュニケーション能力をさらに伸ばす機会を提供する必要がある。 引き続き小中高を通じて英語力を高めたりグローバルマインドを育成する機会を提供しつつ、訪日外国人等に県内を英語で案内できる能力を身に付けた人材を育成するため、高校生の「ジュニア観光ガイド」を養成する。	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	—		推進	推進				推進	推進
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)														
—		推進	推進				推進	推進														
8	グローバル化に対応した教育の推進	外国語(英語)教育・国際理解教育・国際交流の推進 高校生の留学(疑似留学体験、海外語学研修含む)者数	事業目的 取組状況 (H27年度分) 評価 今後の取組方針	外国語(英語)教育の充実や国際交流の推進により、児童生徒のグローバルマインドを育成する。 「Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業」「留学促進事業」「徳島グローバルスタンダード人材育成事業」等により、日本人としてのアイデンティティや「生きた英語」を身に付けるため、児童生徒が外国人と交流する機会を提供したり、留学や海外短期研修の経費支援等を行った。 <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>106</td><td>—</td><td>—</td><td>220</td><td></td><td></td><td>115.8%</td><td>190</td><td>230</td></tr></table> (単位：人) (成果) 実践的に英語を使用したり「世界」を体感する機会の提供により、学校単位での国際交流推進や小中高を通じてグローバルマインドの育成を図ることができた。また、学校計画訪問等により英語の指導改善を図ることができた。 (課題) 意欲ある生徒が、学校での授業や外国人との交流で身に付けた英語力やコミュニケーション能力をさらに伸ばす機会を提供する必要がある。 引き続き小中高を通じて英語力を高めたりグローバルマインドを育成する機会を提供しつつ、訪日外国人等に県内を英語で案内できる能力を身に付けた人材を育成するため、高校生の「ジュニア観光ガイド」を養成する。	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	106	—	—	220			115.8%	190	230
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)														
106	—	—	220			115.8%	190	230														

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																						
9	多様なニーズに対応した学習機会の提供	婦国・外国人児童生徒に対する教育の充実 日本語教育支援の実施及び異文化に対する相互理解教育の推進 担当課 学校教育課	事業目的 婦国・外国人児童生徒に対して行う日本語指導等の支援については、地域や学校、児童生徒の実態等によって、指導内容や指導体制が大きく異なっている。県内の日本語教育に関わる関係機関との連携を図り、このような児童生徒に対して一定の質が担保された日本語指導を受けることができる支援体制整備の構築を図る。 取組状況 (H27年度分) 「婦国・外国人児童生徒“いきいき”モデル事業」「婦国・外国人児童生徒支援事業」により、日本語指導を必要とする婦国・外国人児童生徒に対して日本語講師を学校に派遣し、日本語学習の支援を行った。また、日本語教育に関わる市民団体や国際交流協会、大学との連絡協議会や、日本語講師や学校の教員等を対象とした研修会を実施するとともに、学校が受入の際に役立つWEBページに、保護者に対しフィリピン語による情報提供のページを追加するなど、支援体制の充実を行った。 <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>—</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td></td><td></td><td></td><td>推進</td><td>推進</td></tr></table> (単位：—) 評価 (成果) 県内の関係機関とのネットワーク構築により、学校に日本語指導が必要な児童生徒が転入してきた際に必要な支援を円滑に実施できるようになった。 (課題) 外国人児童生徒の増加に伴い、日本語指導や通訳ができる人材をより多く確保する必要がある。 今後の取組方針 日本語講師の指導力向上を図るための研修の実施等により婦国・外国人児童生徒への支援体制の充実を図る。また、小・中学校を所管する市町村との連携強化を図るため、平成28年度からは、市町村が主体的に取り組めるように実施主体を市町村へ移行し、県が補助事業として市町村の取組を支援する。	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	—	推進	推進	推進				推進	推進				
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																	
—	推進	推進	推進				推進	推進																	
番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																						
10	ICT活用能力の育成	ICTを活用した教育の推進 ICTを活用した授業実践の研修参加者数 担当課 総合教育センター	事業目的 学校においてICTを活用した教育の推進を図られるよう、総合教育センターで実施する研修において、教職員がICTを活用した授業等を実践し、児童生徒が自ら、また協働して学習できる環境等を作るためのスキル及び意識の向上を図る。 <table><tr><td>1</td><td>初任者研修、10年経験者研修において、デジタル教材の作成やICT活用を取り入れた模擬授業形式の研修を実施した。(各1日)</td></tr><tr><td>2</td><td>希望者を対象とした研修において、学校でのICT活用を想定した研修講座を実施した。(7講座10回)</td></tr></table> (単位：人) <table><tr><th>基準値</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>—</td><td>377</td><td>442</td><td>423</td><td></td><td></td><td>105.8%</td><td>400</td><td>400</td></tr></table> (成果) 文部科学省「教育の情報化に関する手引」に示された「教員に必要なICT活用指導力」の内容に沿った研修を実施したことにより、授業におけるICTの活用について、理解とスキルを深めることができた。 (課題) 文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(平成27年3月実施)において、ICT活用指導力に関して、「わりにできる」「ややできる」と回答した本県の教員の割合は87.2%であり、全国平均(71.4%)を上回っているものの、今後もこの割合の向上が求められる。 今後も、授業における教員のICT活用指導力向上に資する研修内容の改善に取り組むとともに、児童生徒の学習環境の変化に対応した講座の充実を図る。	1	初任者研修、10年経験者研修において、デジタル教材の作成やICT活用を取り入れた模擬授業形式の研修を実施した。(各1日)	2	希望者を対象とした研修において、学校でのICT活用を想定した研修講座を実施した。(7講座10回)	基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	—	377	442	423			105.8%	400	400
1	初任者研修、10年経験者研修において、デジタル教材の作成やICT活用を取り入れた模擬授業形式の研修を実施した。(各1日)																								
2	希望者を対象とした研修において、学校でのICT活用を想定した研修講座を実施した。(7講座10回)																								
基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																	
—	377	442	423			105.8%	400	400																	



番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針
11	スポーツ文化の創造	競技スポーツの振興 国民体育大会天皇杯順位の向上 	事業目的 中長期的にジュニア選手の競技力の向上を図るため、県体協、県教委及び競技団体との連携を密に図り、発達段階に応じた「一貫指導システムの構築」と「優秀な指導者の養成」をめざす。 取組状況 (H27年度分) 平成21年度から実施している「徳島育ち競技力向上プロジェクト」において、優れた素質を持つジュニア選手の発掘からトップアスリートまで切れ目のない強化体制を構築するため、「競技者育成プログラム」の普及及び一貫指導を実施する体制の整備を着実に図っている。平成27年度は、23の競技団体が「育成プログラム」を作成及び修正することにより実践した。 さらに、国体選手の競技力向上のため、成果指向型の選手強化に努めるとともに、ドクターやトレーナー及び栄養士等によるサポートやメンタルトレーニング等に対する積極的な研修等、医科学面からのサポート体制を充実させることにより、基礎強化を図った。 評価 (成果) 国体をはじめとする全国大会や国際大会において、高校生の上位入賞者の増加が見られる。 (課題) 組織力や運営能力が未成熟な競技団体にに対して、競技力の底上げや指導者の資質向上に向けての助言や支援を継続的に行うなど、一層競技団体と連携・協働していく必要がある。 今後の取組方針 ジュニアからシニアまでの一貫した指導により、将来オリンピック出場が可能なトップアスリート選手の育成を目指す「一貫指導システム」の構築と「トップ指導者の養成」を継続するとともに、競技スポーツにおける成果指向型の選手強化を図り、さらなる競技力向上を進める。	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針 全国高等学校総合体育大会等の全国大会において上位入賞ができる運動部を育成する。 徳島渦潮高校スポーツ科の施設や人材を活用した「渦潮スポーツアカデミー推進事業」や「徳島トップスポーツ教育成事業」を通して競技力向上を図った。 取組状況 (H27年度分) (成果) 「平成27年度全国高等学校総合体育大会」において、団体6、個人14、合計20の入賞があった。また、全国高校総体と同等の大会である「第53回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」においても、団体3、個人3、合計6の入賞があった。 (課題) 個人種目の活躍は顕著で強化の成果が見られるが、球技系の団体種目において入賞数が少なくそれらの強化を図る必要がある。 評価 「ジュニア選手の発掘」や「指導者の養成」に取り組むとともに、中学校と連携を図り継続的な強化に努めることにより、高校生の競技力向上を図る。
12	スポーツ文化の創造	競技スポーツの振興 全国高等学校総合体育大会の入賞(団体・個人)数 	事業目的 全国高等学校総合体育大会等の全国大会において上位入賞ができる運動部を育成する。 取組状況 (H27年度分) (成果) 「平成27年度全国高等学校総合体育大会」において、団体6、個人14、合計20の入賞があった。また、全国高校総体と同等の大会である「第53回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」においても、団体3、個人3、合計6の入賞があった。 (課題) 個人種目の活躍は顕著で強化の成果が見られるが、球技系の団体種目において入賞数が少なくそれらの強化を図る必要がある。 評価 「ジュニア選手の発掘」や「指導者の養成」に取り組むとともに、中学校と連携を図り継続的な強化に努めることにより、高校生の競技力向上を図る。	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針 全国高等学校総合体育大会等の全国大会において上位入賞ができる運動部を育成する。 徳島渦潮高校スポーツ科の施設や人材を活用した「渦潮スポーツアカデミー推進事業」や「徳島トップスポーツ教育成事業」を通して競技力向上を図った。 取組状況 (H27年度分) (成果) 「平成27年度全国高等学校総合体育大会」において、団体6、個人14、合計20の入賞があった。また、全国高校総体と同等の大会である「第53回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」においても、団体3、個人3、合計6の入賞があった。 (課題) 個人種目の活躍は顕著で強化の成果が見られるが、球技系の団体種目において入賞数が少なくそれらの強化を図る必要がある。 評価 「ジュニア選手の発掘」や「指導者の養成」に取り組むとともに、中学校と連携を図り継続的な強化に努めることにより、高校生の競技力向上を図る。

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																										
13	スポーツ文化の創造	競技スポーツの振興 鳴門渦潮高校のスポーツ科学機器を活用した体力測定人数 <table><tr><td>基準値(H24)</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td></tr><tr><td>250</td><td>328</td><td>325</td><td>214</td></tr></table>	基準値(H24)	H25	H26	H27	250	328	325	214	事業目的 県内トップ選手の体力を総合的に診断し、得られたデータを科学的に分析しトレーニングに活用することで競技力の向上を図る。 大学や県トレーニング協会、スポーツ栄養士協会と連携を強め、競技者の体力を「総合的」に診断し、競技力向上のサポートを行った。 <table><tr><td>基準値(H24)</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>達成率(H27)</td><td>目標値(H27)</td><td>目標値(H29)</td></tr><tr><td>250</td><td>328</td><td>325</td><td>214</td><td></td><td></td><td>71.3%</td><td>300</td><td>300</td></tr></table> (単位：人) (成果) スポーツ指定校をはじめ、県内高校の運動部に「体力診断」が定着しつつある。 (課題) 蓄積したデータを大学等の専門機関と連携して分析し、多くのアスリートが活用できるようにする。平成27年度は測定人数が減少したが、今後は、県高等学校体育連盟が主催する会議での周知や、学校へ個別に働きかけるなど、あらゆる機会を通じて情報発信し、多くの運動部に活用してもらえよう取り組んでいく必要がある。 今後とも継続して測定を行うとともに、今までに得られたデータを分析し県内の競技者にフィードバックすることで科学的トレーニングの一助とする。また、ジュニア選手の測定を行い、才能ある競技者の発掘を行う。	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	250	328	325	214			71.3%	300	300
基準値(H24)	H25	H26	H27																										
250	328	325	214																										
基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																					
250	328	325	214			71.3%	300	300																					
14	スポーツ文化の創造	担当課 体育学校安全課 施策・成果指標 スポーツを通じての幸福で豊かな生活の創造 徳島県スポーツ推進計画の着実な推進	事業目的 少子高齢化の進行や高度情報化社会の進展など、近年の社会環境や生活様式の急激な変化により、スポーツや運動をする機会が減少し、体力・運動能力の低下のみならず、メタボリック・シンドロームや心の病の増加、人間関係の希薄化、地域間格差の拡大など様々な課題を生じさせている。こうした状況の中、本県スポーツを取り巻く社会の現状と課題を踏まえ、今後の本県スポーツ推進の基本的な方向性を示すものである。 50年ぶりに全面改正された「スポーツ基本法」が平成23年8月に施行され、平成24年3月には、国の「スポーツ基本計画」が策定されたことに伴い、平成25年3月に策定した「徳島県スポーツ推進計画」の進捗状況を審議するため、平成28年2月に「徳島県スポーツ推進審議会」を開催した。 また、各市町村におけるスポーツ関係施策等のアンケートを行い、集計結果を各市町村にフィードバックするとともに、地域の実情に即した「市町村スポーツ推進計画」の策定について働きかけを行うため、平成27年7月に「スポーツ推進・市町村担当課長会議」を開催した。 <table><tr><td>基準値(H24)</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>達成率(H27)</td><td>目標値(H27)</td><td>目標値(H29)</td></tr><tr><td>推進計画の策定</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td></td><td></td><td></td><td>推進</td><td>推進</td></tr></table> (単位：ー) (成果) 市町村ごとのスポーツ活動の実態を把握することができ、市町村との連携した取組の強化につながった。 (課題) 県、市町村、スポーツクラブ、大学、医療機関等、多様な主体が一層連携していく必要がある。 県、市町村、県体育協会、総合型クラブ等と一層の連携を図りながら、計画的・効果的な施策を推進していく。	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	推進計画の策定	推進	推進	推進				推進	推進								
基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																					
推進計画の策定	推進	推進	推進				推進	推進																					

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																				
15	伝統文化の継承と文化芸術の創造	文化芸術活動の推進 学校で文化芸術活動に関する授業ができる芸術家や団体の登録数 <table><tr><th>基準値(H24)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>160</td><td>183</td><td>177</td><td>176</td><td></td><td></td><td>97.8%</td><td>180</td><td>180</td></tr></table> (単位：人)	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	160	183	177	176			97.8%	180	180	事業目的 学校で文化芸術活動に関する授業ができる芸術家や団体に「文化教育人材バンク」に登録してもらい、計画的に登録数を増やすとともに、学校に周知することで、芸術家等と学校をコーディネートし、地域及び学校における文化教育の活性化をめざす。 取組状況(H27年度分) 1年を通じて「文化教育人材バンク」への追加登録に努めた。また、学校に「文化教育人材バンク」の活用を周知するとともに、年度末に既登録者に対する登録継続の確認を行った。 <table><tr><th>基準値(H24)</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>160</td><td>183</td><td>177</td><td>176</td><td></td><td></td><td>97.8%</td><td>180</td><td>180</td></tr></table> (単位：人) 評価 (成果)「文化教育人材バンク」の登録者数の拡大に努めるとともに、文化庁事業・県費事業の募集案内時には、バンクが利用できることを周知した結果、多くの学校がバンク登録者を活用することができた。 (課題)各学校の文化芸術活動が幅広くなるよう、多様なジャンルの芸術家を確保し、周知に努める必要がある。 今後の取組方針 「文化教育人材バンク」が学校現場でより一層活用されるよう、芸術家等と学校のニーズを把握しながら、新規登録者の開拓に努める。	基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	160	183	177	176			97.8%	180	180
基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																															
160	183	177	176			97.8%	180	180																															
基準値(H24)	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																															
160	183	177	176			97.8%	180	180																															
16	伝統文化の継承と文化芸術の創造	文化芸術活動の推進 文化の森文化施設普及事業の開催回数 <table><tr><th>基準値(H23)</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th></tr><tr><td>254</td><td>265</td><td>298</td><td>298</td><td>298</td></tr></table>	基準値(H23)	H24	H25	H26	H27	254	265	298	298	298	事業目的 優れた芸術作品に直接触れ合う機会を設けるとともに、県民のニーズに応じた様々な普及行事を実施し、伝統文化の継承と文化芸術の創造につなげる。 取組状況(H27年度分) 各館で様々な普及行事を実施した。 ・博物館 114回 ・近代美術館 56回 ・21世紀館 36回 ・鳥居龍藏記念博物館 10回 ・文書館 70回 ・図書館 12回 <table><tr><th>基準値(H23)</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>達成率(H27)</th><th>目標値(H27)</th><th>目標値(H29)</th></tr><tr><td>254</td><td>265</td><td>298</td><td>298</td><td>298</td><td></td><td></td><td>110.4%</td><td>270</td><td>270</td></tr></table> (単位：回) 評価 (成果)県民の誰もが参加でき、楽しみながら学び、考え、知的欲求を満たすことのできる場を提供した。 (課題)県民のニーズに応じた、豊富な普及行事を実施する必要がある。 今後の取組方針 引き続き、幼児から成人・高齢者に至るまでの世代を対象にした普及事業を実施する。今後は、参加者の要望も取り入れながら、更に親しみやすい事業を計画・実施するとともに、意欲的に継続して普及事業に参加される方には、内容を深く掘り下げた知的好奇心を刺激するような事業も併せて実施する。	基準値(H23)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)	254	265	298	298	298			110.4%	270	270						
基準値(H23)	H24	H25	H26	H27																																			
254	265	298	298	298																																			
基準値(H23)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)																														
254	265	298	298	298			110.4%	270	270																														

担当課 文化の森振興本部

番号	推進項目	施策・成果指標	事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針
17	伝統文化の継承と文化芸術の創造	伝統文化と文化財の保存・継承 伝統文化や文化財に関する教育を組み入れた中学校 教育課程の実施	あわ文化教育を教育課程に位置づけて、効果的にかつ継続的に、ふるさと徳島の伝統文化や文化財について学び、誇りを持って県内外へ発信していくことができる生徒の育成をめざす。
			モデル校である県立中学校を含む25の公立中学校2年生及び、全ての県内公立中学校1年生を対象に「あわ文化学習」を実施した。それぞれの中学校の教育課程に基づき、あわ文化についての授業・体験授業・現地授業を行った。
			基準値 H25 モデル校 での実施 H26 モデル校 での実施 H27 全公立中学 校での実施 H28 H29 達成率(H27) 目標値(H27) 目標値(H29) — モデル校での 実施 全公立中学校 での実施 (単位：—)
			(成果) 県立3中学校（城ノ内中学校・富岡東中学校・川島中学校）を含む25の公立中学校2年生及び、全ての県内公立中学校1年生を対象に「あわ文化学習」を実施した。 (課題) あわ文化学習を効果的に実施するための、指導の工夫・改善が必要である。
		担当課 教育文化課	今後の取組方針 全公立中学校で体系的かつ効果的にあわ文化教育が実施されるよう、あわ文化教育リーダー育成のための研修を実施し、指導の補助資料充実に努める。

基本方針2 知・徳・体の調和がとれ、社会を生き抜く力を育てる教育の実現

番号

18

推進項目

確かな学力の育成

施策・成果指標

学力向上策の推進
ふだん一日10分以上読書をする児童生徒の割合

担当課

学校教育課

事業目的

全国的に家庭における読書離れが指摘されている中、学校図書館活動を活性化し、貸出冊数を増加させるなど学校による家庭読書につながる取組を充実させ、児童生徒が家庭や図書館で本を読む習慣を定着させる。

取組状況(H27年度分)

小5

70.1

中2

58.1

86.5

79.9

81.9

72.5

84.2

74.8

84.2

74.8

評価

(成果) 多くの学校において、授業での学校図書館の活用やお薦めブックリストの作成、朝の一斉読書など学校をあげての取組が行われ、読書活動の推進が図られている。

(課題) 小学生に比べ、中学生の読書活動の割合がやや低い。ため、読書の生活化に向けた取組を深め、さらに啓発活動を行っていく必要がある。

今後の取組方針

子どもたちの身近に読みたい本がある環境づくりを推進するため、各学校の図書館がより一層活用されるように図書館活用の機会を拡大していく。また「読書の生活化プロジェクトⅣ」を実施し、毎月23日を「家庭読書の日」、その週を「家庭読書推進週間」として新聞を含む家庭読書につながる取組を実施する。

事業目的と平成27年度の取組状況、評価、今後の取組方針

「全国学力・学習状況調査」における教科（国語、算数・数学）の調査により、知識・技能の習得及び知識・技能を活用して問題を解決する力（思考力・判断力・表現力等）の定着の状況等を把握し、各学校の授業改善を促進する。

学力向上推進委員研修会、学校訪問指導等において、調査結果の分析を踏まえた授業改善の具体的方策を周知するとともに、市町村教育委員会との協議や校長会等を通じて、課題解決に向けた指導の充実について共通理解を図った。

「全国学力・学習状況調査」の実施（4月21日）

「全国学力・学習状況調査」の結果公表（8月26日）

基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)
—	—	—	推進				推進	全国平均以上

(成果) 全国的・全県的な状況を参考に各学校において結果分析を行い、自校の課題に即した授業改善等の取組が推進されている。

(課題) 各学校において、学年間の指導内容の系統性を踏まえた継続的な指導に関する認識を深め、学力・学習状況調査を有効に活用することが重要である。

番号

19

推進項目

確かな学力の育成

施策・成果指標

学力向上策の推進
「全国学力・学習状況調査」で調査対象となっている国語・算数(数学)の県平均正答率

担当課

学校教育課

事業目的

「全国学力・学習状況調査」における教科（国語、算数・数学）の調査により、知識・技能の習得及び知識・技能を活用して問題を解決する力（思考力・判断力・表現力等）の定着の状況等を把握し、各学校の授業改善を促進する。

取組状況(H27年度分)

基準値	H25	H26	H27	H28	H29	達成率(H27)	目標値(H27)	目標値(H29)
—	—	—	推進				推進	全国平均以上

(成果) 全国的・全県的な状況を参考に各学校において結果分析を行い、自校の課題に即した授業改善等の取組が推進されている。

(課題) 各学校において、学年間の指導内容の系統性を踏まえた継続的な指導に関する認識を深め、学力・学習状況調査を有効に活用することが重要である。

評価

(成果) 全国的・全県的な状況を参考に各学校において結果分析を行い、自校の課題に即した授業改善等の取組が推進されている。

(課題) 各学校において、学年間の指導内容の系統性を踏まえた継続的な指導に関する認識を深め、学力・学習状況調査を有効に活用することが重要である。

今後の取組方針

引き続き「全国学力・学習状況調査」に参加し、調査結果を活用した学力向上の取組を一層推進する。